



長年にわたって研学9条の会の代表・世話人として会の活動を牽引してくださっていた安田公三さんが、2月24日にご逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。会の世話人・山本千秋さんから、安田さんを悼む手紙が安田さんの奥様に寄せられました。ここにその手紙を紹介します。

\*\*\*\*\*

安田公三ご夫人 様  
山本 千秋

2024年3月5日

### 安田公三さんを追悼して

安田さんの奥様には、はじめてお手紙を差し上げます。

この度は安田さんの訃報に接し、ごく最近までお元気で会議などに出席しておられましたので、驚きとともに残念この上なく「早すぎだよ」という気持ちで一杯です。心からお悔やみ申し上げ、ご冥福をお祈り致します。私(84歳)は、旧名で農林省林業試験場出身、安田さんは農林省蚕糸試験場の出身で、筑波移転の前、東京時代から知り合いの仲でした。農林省の試験研究機関の出身ということでは共通していましたが、「木」と「蚕」の間柄でしたので、研究上でのお付き合いはありませんでした。

私たちを結びつけたのは、「労働組合」運動でした。労働組合は、働く者(労働者)と命令する者(使用者・国家権力など)との間で様々な問題が生じた時、働く者の立場に立って問題の解決に努める自主的な組織ですが、労働組合の役員になると自分の研究時間が削られてしまうし、精神的にも大変苦勞の多い活動ですので、積極的に役員に名乗り出る人など一人もいません。

しかし、安田さんも私も、労働組合の存在意義があるかぎり、大変でも時には役員を引き受ける必要があるだろうと判断し、職場組合員から強い要請があった時には役員を受けていました。そんな次第で、農林省の東京都レベルの労働組合「全農林労働組合東京都本部」が提起するさまざまな運動に参加する中で、安田さんと知り合いになったのです。

こうした安田さんとの関係は筑波移転の後も続いておりました。定年退職後は、労働組合運動は「卒業」しましたが、日本科学者会議、新しいつくばを創る市民の会、研究所・大学関係9条の会、年金者組合、その他住民運動などの市民活動でも、安田さんとは顔を合わせる機会がよくありました。

安田さんは、口が達者でみんなをぐいぐい引っ張っていくというタイプの活動家ではありませんでした。しかし、労働組合蚕糸試験場分会の執行委員長の要職も立派に果たされ、何よりも大事な場面ではしっかりとものを言い、安田さんが居るだけでみんなが安心する、そんな存在でした。

もちろん安田さんは、労働組合運動だけでなく、平和も民主主義も人権も平然と踏みにじる自民党政治に対して、果敢に闘い続ける正義派の運動家でした。

私はいま安田さんに、「長い間お疲れ様。ゆっくり休んでネ。遠からず私もそちらに行くので、その時はグラスを傾け思い出話を花を咲かせよう」と言いたい気持ちです。

それでは奥様・ご親族の皆さま、寂しいことですが、どうぞ気強くお元気でお暮らし下さい。安田さんと親交を結べたことは、私にとって大事な財産となりました。ありがとうございました。

さようなら

# 研・学9条の会: 戦争体験を気軽に語る会

## — 米谷 宏さんのお話し —

元海軍甲種飛行予科練習生として、特殊潜航艇“海龍”の操縦訓練を受けた米谷 宏さん(元地質調査所職員、96歳)の体験を聞く会を開きました。

(3月29日(金)13時半～ 小野川交流センターにて、13人参加)

米谷さんのお話の概要と参加者との対話の様子をお伝えします。

### 米谷さんの講演

1944年、中学3年の頃「海軍甲種飛行予科練習生」に志願し入隊した。飛行機に乗りたいたいと思って志願したのに、横須賀の久里浜海軍通信学校へ連れていかれた。何で通信学校か？ 上官は「飛行機には一人で乗るのだから通信操作を身につけていなければいけない」と言っていた。

通信学校での生活は、300人の入隊者が20～30人の班編成で寝泊まりし、朝6時から夜9時まで座学と教練の毎日だった。

- 座学とは 物理、数学、化学などの授業
- 教練とは 体を鍛える軍事教練、銃の扱いやボートを漕ぐこともやった
- 飛行機に乗るための訓練は無かった。

兵舎は真ん中に通路があり机が並べられ、両側に寝るための板の間の部屋があって雑魚寝していた。プライバシーはない(牛小屋のようだった)。屋外では、手をポケットに入れなくて、小走りで移動しなければならなかった。

カッター(日本海軍伝統の艦載大型ボート)競争で負けたときは、班ごとに制裁を受けた。かの「直心棒」または「精神棒」別名「バツタ」で、尻を3回叩かれる。尻が腫れ上がり、汚い話であるが便を漏らしたこともあった。

飛行機の訓練は、飛行機・油がなくてできなかった。それなのに300人を採用した理由は、特攻隊に使おうとしていたのでは、と思う。

しばらく通信学校での生活をしてから、特攻隊の募集が行われた。一人ひとり呼び出されて、半強制的に同意させられた。

特攻隊として呉に行き、訓練として潜水艦に乗せられた。その後、山口県柳井に移動して、特殊潜航艇“海龍”の操縦訓練(粗悪な製造のため訓練中に浸水して沈むこともあった。)を受けたが、特攻隊として出撃することもなく、終戦を迎えた。(海龍は、大日本帝国海軍の特

殊潜航艇の一種で、敵艦に対して魚雷もしくは体当たりにより攻撃を行う二人乗りの有翼特殊潜航艇)

### 米谷さんの講演後の討論

[Q] 特攻隊志願の実態、半強制的とは？

[A] 特攻隊に志願したとき、迷ったが、「天皇のため、国難だから」と押し切られた。拒否できる状況でなかった。300人も訓練生の募集があったが、飛ばす飛行機もなく、どうするか？ 結局特攻隊にされてしまった。消耗品ですよ！

[Q] 土浦の予科練には行かなかったのか？

[A] 行かなかった。予科練習生は優秀な生徒が応募していたが、終戦が近づくころは、いい加減な募集になっていた。

[Q] 8月15日の終戦の日は、軍から指令があったのか？

[A] 軍隊では玉音放送は聞かなかった。人伝えに敗戦を聞き、組織の規律は一気に崩れ、ちり散りバラバラ、勝手に故郷に帰った。

[Q] 新憲法が発布されたとき、米谷さんはどのように思われたのか？

[A] 家が富山なので、日本が悪いことをしたという情報が伝わってなくて、家に帰っても「正義の戦い」と思っていた。憲法ができたからと言って、どのように生きるかという気持ちは変わらなかった。

労働組合に入って勉強してはじめて悪いとわかった。労働組合は大切な役割を果たしていると思う。

[Q] 海軍に志願したとき、ご家族の反応は

[A] 上の兄弟はみんな兵隊に行っていた。母親に伝えましたが、母は何も言わなかった。「天皇の子である。国のために働くことは当たりまえ」の時代だった。1944年

ころは、敗戦間近で、勉強をしているときではない、工場や軍隊に行くことが当たり前の時代だった。このような時代にもどしていけないと思う。

[Q] 戦争が終わってどう思ったか？

[A] 正直なところホッとした。

[Q] 労働組合の元気がなくなってきたことについてどう思うか？

[A] 労働組合が元気なときに過ごした私としては寂しい感じがする。労働組合の衰退と日本の軍国主義化は関係があると思う。

[Q] 米谷さんの海軍での地位は？

[A] 特攻隊に志願すると、2階級特進で、下級士官クラス、食事も良くなった。練習生の300人は特攻隊として出撃することはなかったが、訓練中に死んだ人はかなりいたと思う。公表していないので、正確には分からない。



## 草津・重監房資料館を訪ねて

2024年2月4日、草津温泉湯治旅の間に、草津町南東のはずれにある重監房資料館を訪ねた。特別な思い入れはなく、少し時間があつたので、運動がてらに見学しようという気持ちだった。今回の旅で使い始めた巡回バスに乗って、つつじ亭前のバス停で降りて、歩き始めた。行けども行けども、ほぼ直線の道だった。中之条町へとつながる立派な道だ。傾斜はそれほどきつくないが、三度くらいアップダウンがあつて、30分以上歩いて入口に到着した。途中、薄雪の残る林間に、葬儀場、集団墓地、下水道施設と続き、栗生楽泉園が現れた。資料館入口は、その楽泉園入口からさらにあと900mほど離れている。入口道路はクマザサの茂る道であつた。ここで、右手に、雪をかぶった浅間と白根が見えた。素晴らしい景色だ。

特に断りもしないで入館し、見学を開始した。縮尺1/20の模型と実物大の再現された施設の一部を見て、なによりもまず、「ここは、予想していたハンセン病療養施設ではない」という驚きが来た。牢屋だった。高さが

## 参加者からの意見・感想

- 学童疎開が終わって東京に戻ってから空襲を見たことを、小学校で話したところ、皆真剣にきいてくれて、感想文を書いてくれた。体験を話すことを続けている。
- 戦争の体験を伝えることは大事です。これからもこういう話し合いをしたいと思います。こういう集會に若い人たちに来てもらうためには、どうしたらいいのでしょうか？
- 若い人たちが主催して、その集會に私たちが参加するのが理想的。
- 若い人にどうやって伝えたらよいかーきちんと憲法を小学校から教育をしなといけない。

最後に、司会を努めていただいた山本千秋さんから：

米谷さんは96歳です。私より一回りも高齢なのに、質問に的確にこたえてくれました。どうもありがとうございました。

## 稲垣隆雄 (KEK 九条の会)

4mの壁で囲まれた中に、内面積が四畳半ほどの板囲いの小屋(監禁室)が、独房だった。全体9区画のうち3区画が実物大の再現だ。小屋の入り口は、背の低いくぐり戸で、壁にはスリット上の窓がある。窓といっても、穴が開いているだけで、ふたをさされていない。4mの壁で囲まれた区画には、屋根がない。ふきっさらしで、雪も吹き込んでいいる。2番目の小屋には、薄っぺらな布団に、女性の人形が横たわっていて、ぎよつとした。

ここはかつて「特別病室」と呼ばれ、1938年(昭和13年)から1947年(昭和22年)まで運用されていた。しかし、病室とは名ばかりで、その実態はハンセン病患者を対象とした日本に一つしかない懲罰施設だった。全国から、おとなしくないハンセン病患者が、送られてきた。全国の療養所長には懲戒検束権という権限が与えられていたので、正式な裁判によらず収監できた。療養所からの脱走を繰り返す患者や、患者の相互扶助していた熊本のお寺に集まっていた人たちとか、あげくは、職員の衣服の洗濯をしていて、破れてしまった長靴の交換

をお願いした患者達などが、収監された。1日2回、わずかな麦飯や具の無い味噌汁などが与えられ、この電燈も暖房もない監禁室に閉じ込められていた。

全国の療養施設には、取り扱いに困る患者を懲罰する設備が付与されていた。一定期間収容して、教示するためのもので、そこでは収容期間は限定されていたが、この特別病室には、収監 500 日を超える例もあった。30 %以上の方が獄死した。「草津へ送る」という言葉は、全国のハンセン病患者への恐怖の脅し文句となった。ちなみに、収容された人たちに食事を運んだり、死体を片付ける作業をしたのは、栗生楽泉園の患者たちだった。この施設が日本のアウシュビッツと呼ばれるゆえんだ。戦後すぐに行われた国会の調査などでそのあまりの過酷さが明らみに出て社会に衝撃を与え、この特別病室は通称「重監房」と呼ばれるようになった。現在、建物は取り壊されて基礎部分だけになったが、ハン

セン病隔離政策を象徴する負の遺産を後世に伝え、人権尊重の意識向上に役立つ教訓とするため、10 年前に厚生労働省が、この資料館を設置した。

周囲に根雪の積もる長い道を歩いてきて、ふきっさらしの重監房をみて、その寒さが、実感できた。でも、私は、せいぜい零度にいるが、標高 1000m をこえる草津では、零下 20 度はざらにある。温かいお湯の湧く草津という名前も恨めしくなる。この過酷な扱いの根っこには、ハンセン病患者の生きる権利・人権を認めないという考えがある。この施設の運用時期が、戦争の真っただ中の 10 年であったことから、戦争と人権についても考えさせられる。日本国憲法は、基本的人権の擁護、戦争放棄と国民権の 3 者の鼎立で成り立つ。どれか一つが、壊れても、国は成り立たない。改めて、肝に銘じる訪問となった。

2024 年 2 月

## 事務局より

### 会計報告

筑波研究学園都市研究所・大学関係 9 条の会 2023 年会計決算報告 (2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

収 入			支 出		
項目	金額	備考	項目	金額	備考
前年より繰越	88,850	手持ちの現金	通信費	21,568	ニュース送料：3 号分
預金残高	58,881	賛同金+利子	事務費	9,706	封筒、印鑑制作費
			協賛金等	3,262	5.3 憲法フェスタ
			団体カンパ	3,262	百里に 9 条の碑 (含 送金手数料)
合計	147,731		合計	37,798	

次年への繰越 109,933 円

### ● カンパのお願い

日頃から皆様のご支援とご協力をいただきありがとうございます。

改憲の動きが活発になっています。これからも、地域の関連団体と連携をとり憲法 9 条を守るため「憲法改悪を許さない全国署名」の活動等を継続します。

つきましては、引き続き活動を進めるためのカンパに取り組みたいと思います。振替用紙を同封しますので、皆さまのご協力をお願いいたします。なお、郵便振替の加入者名、口座記号・番号は下記のとおりです。

加入者名：筑波研究学園都市研究所・大学関係 9 条の会

口座記号・口座番号： 00120-4-501101

### ● メール登録のお願い

研学 9 条の会では、これまで希望者に印刷物でニュースを届けてきましたが、手数と経費の節減のためなるべく電子メールでの配布に切り替えたいと考えています。また「戦争体験を気軽に語る会」など行事のお知らせを迅速にするためにも、電子メールアドレスの登録をお願いします。

登録はこちらから：



(<http://peace.arrow.jp/tsc/mailreg/>)

お問い合わせ先

手島昌己： e-mail: amx01837@mail2.accsnet.ne.jp

碓井雄一： e-mail: usui@peace.arrow.jp